

# 術後 ICU 管理の現場から

国立国際医療センター

救命救急センター 集中治療科

岡本竜哉

# 腹膜疾患の ICU における重要性

2012/4-2025/11

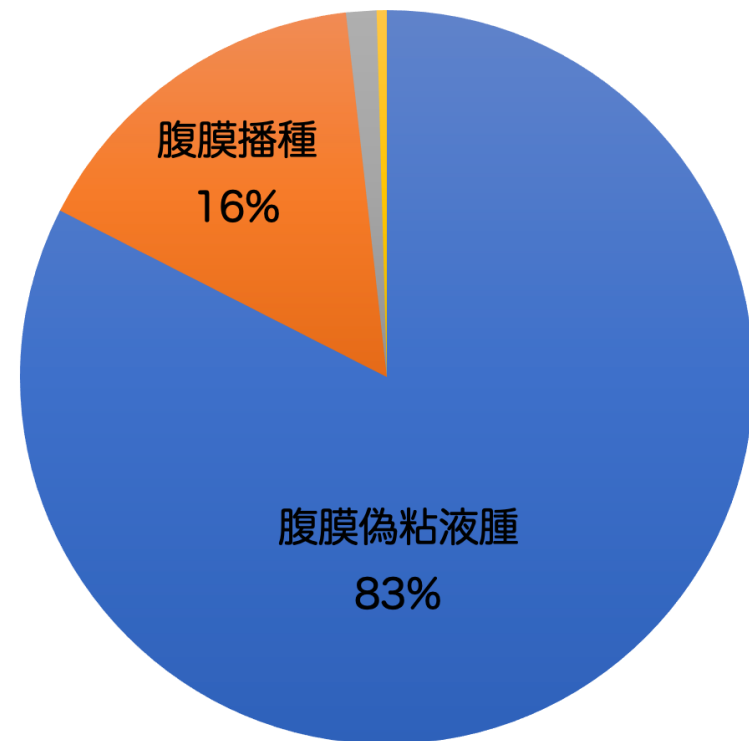
腹膜疾患は、**ICU 入室患者の 8%** を占める、たいへん**重要な疾患**である。

- 患者数：897/10665 例 (8.4%)
- 病床利用数：4298/51660 床日 (8.3%)

悪性腹膜中皮腫 1%

平均在室日数は 4.8 日

疾患内訳は、**腹膜偽粘液腫 83%**、**大腸がんの腹膜播種 16%** となっている。



	例数
腹膜偽粘液腫	740
腹膜播種	141
悪性腹膜中皮腫	12
合併症 (穿孔など)	4
	897

完全減量術の多く (461/529 例、**87%**) は、**挿管**にて ICU 入室。

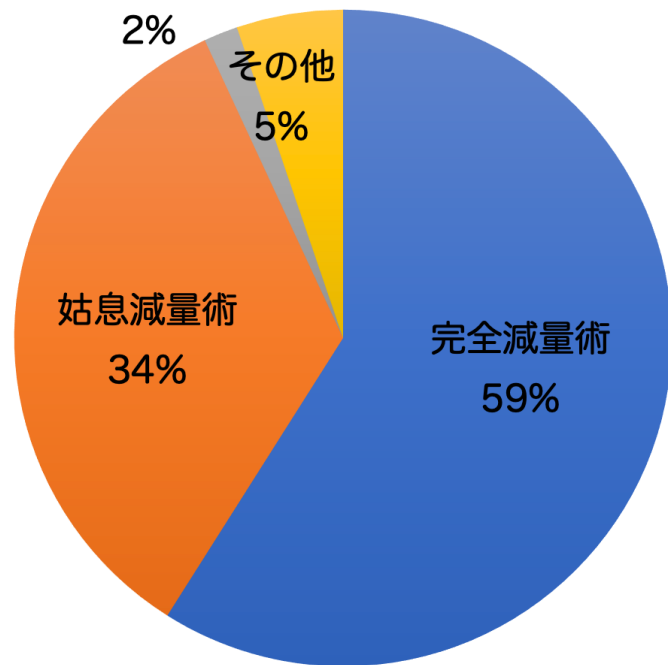
多くの症例で**翌朝抜管**できており、4 日間の EPIC 後、**第 6 病日に一般床に退室**している。

# 腹膜疾患の術式

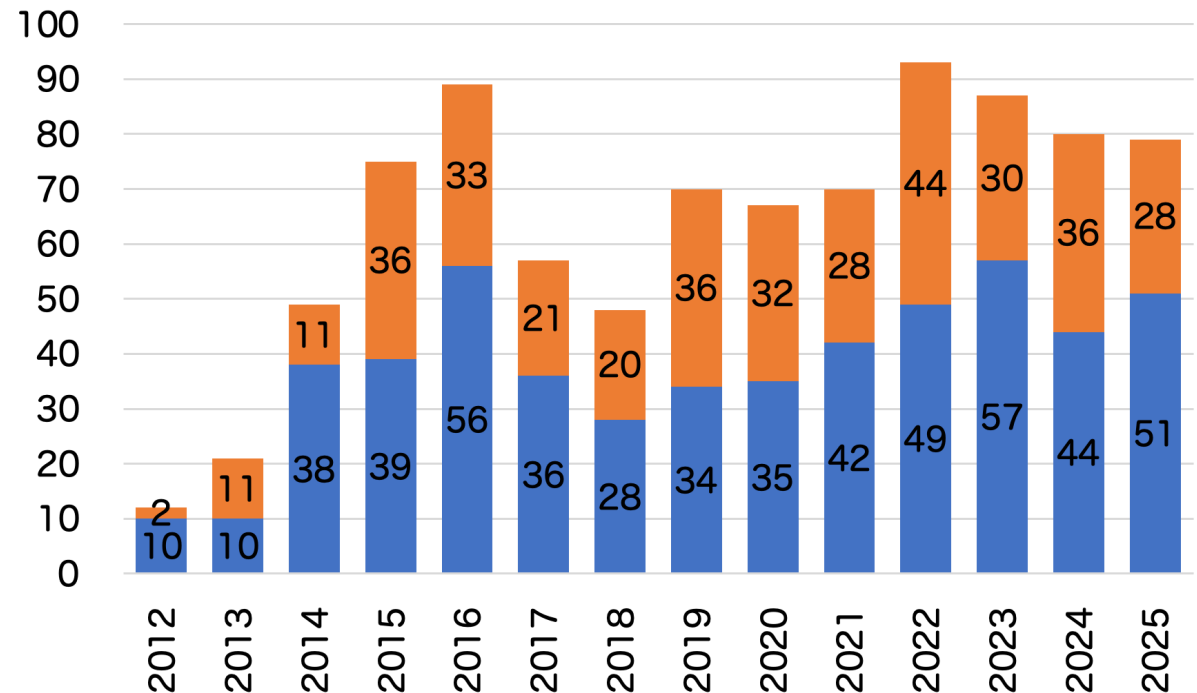
2012/4-2025/11

完全減量術が 529 例 (59%)、姑息減量術が 306 例 (34%) であった。  
平均在室日数は、完全減量術 5.8 日、姑息減量術 3.1 日であった。

試験開腹・審査腹腔鏡



■ 完全減量 ■ 姑息減量ほか



入室患者数も安定しており、コロナ禍の影響も余り受けなかった。  
直近 (2022-2025 年) では、完全減量が年間 50 例、姑息減量が年間 35 例の入室。  
毎週コンスタントに、木曜日の完全減量手術が行われている。